

石垣と景観の保護に必要な樹木管理

利神城跡天守丸などの樹木植生を調査



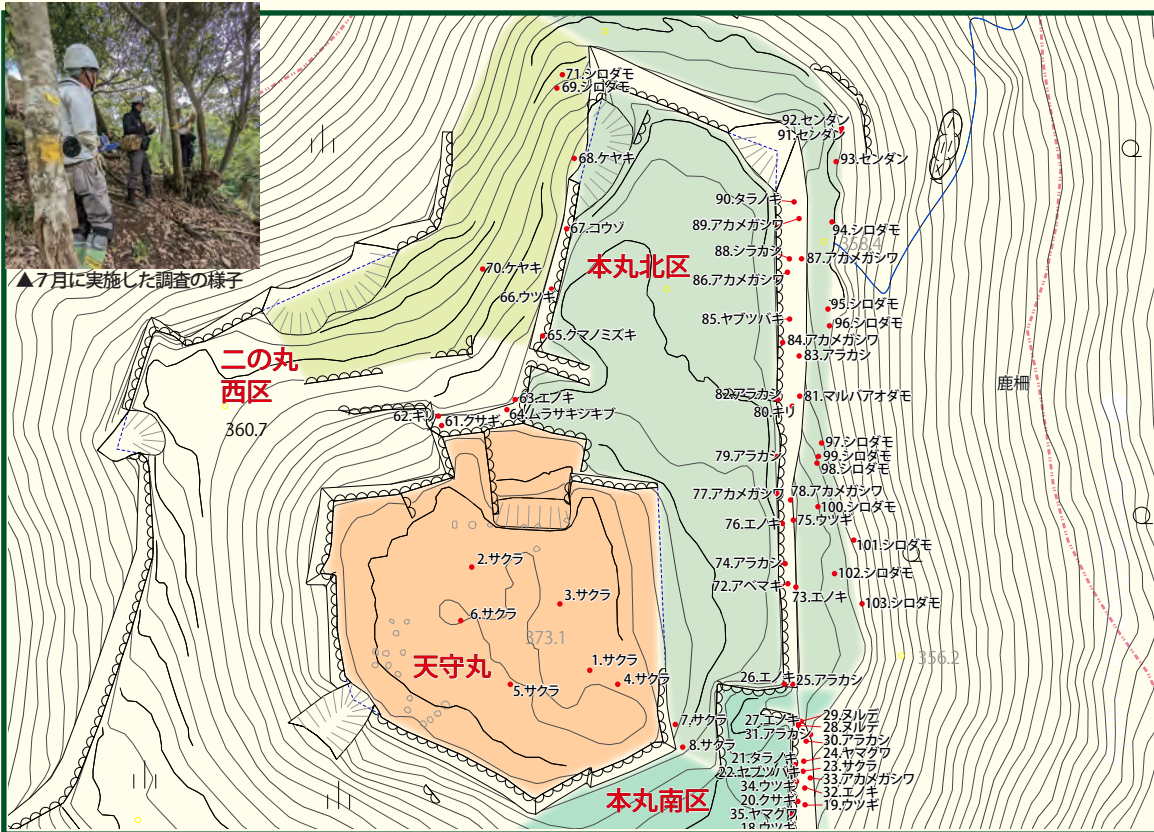
NO 7
2023
令和5年10月

国史跡 利神城かわら版

編集・発行
佐用町教育委員会教育課
〒679-5380
兵庫県佐用郡佐用町佐用2611-1
☎0790-82-2424



▲7月に実施した調査の様子



山城中心地区で実施した「樹木植生調査」による樹木分布図（天守丸と本丸北區・南區の一部のみ掲載）

樹勢が弱っている天守丸の桜

平坦な天守丸には、8本の桜(ソメイヨシノ)が生育。1本を除き梢が枯れたり、樹皮がはがれて腐ったりして弱っています。地表面はセンダンやササで覆われていますが、草刈りできれいに管理されています。

本丸南區の樹木は剪定必要

枡形虎口と高石垣がある本丸南區には52本の中低木があり、クサギ8本、エノキ9本、アラカシ4本、ヌルギ4本、桜3本など16種の落葉広葉樹が見られます。景観上、伐採して石垣を見やすくする必要があります。

低木32本が石垣を覆う本丸北區

本丸南區に連なる本丸北區には32本の低木があり、ほとんどが石垣上に自生。アカメガシワ6本、センダン3本など8種の落葉広葉樹、アラカシ4本、シロダモ10本など4種の常緑樹が見られ、石垣の全面を覆っており、すべて除去が必要です。

二の丸西區には主に落葉樹11本

天守丸西側の二の丸西區は11本で本数は少なく、地表面はササとカヤに覆われています。樹種はクサギ、キリ、エノキなど8種の落葉樹と常緑樹のシロダモ2本で、剪定が必要。

(注) カラス丸區は低木のセンダン林につき当調査では除外しています

利神城跡の整備には、近接する樹木が、石垣の安定化の役割を持つているのか、地震や雨風によって石垣を崩壊させる懸念があるのかを調べる必要があります。そこで、樹木の現況や景観特性を踏まえ、管理方針を定めるため、今夏、山城中心地区の樹木植生を樹木医の協力のもと調査しました。本号では、当調査で明らかにした天守丸など主郭部の樹木の特徴を報告します。

高木が斜面を守る二の丸東區

当區の馬場へと向かう犬走りには樹高の高いアベマキが6本並んでおり、大木の根が広がり、法面保護の役割を果たしています。また、東斜面には高木のケヤキが多く、樹木の根が斜面の石礫を抱え込み、落石をふせいでいます。

紅葉が楽しめる三の丸區

現在の登山道を上ると最初に目にする曲輪である三の丸區は、中低木のアラカシ14本、イロハモミジ2本が自生します。景観上、剪定しながら保護する必要があります。

シロダモ林の馬場區

天守丸から南東の幅の狭い曲輪である馬場區には、シロダモ8本が自生する林です。剪定しながら法面を保護する必要があります。

センダン林の大坂丸區

天守丸の北西側に位置する大坂丸區には、アベマキ1本のほか、センダン林となっています。暖地の樹種であるセンダンは自生木とは考えられないので、斜面保護に配慮しながら徐々に本数を減少させ、アベマキの種子の落下による落葉広葉樹林への転換を促進していく必要があります。